

1. 件名：新規基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（島根2号機設計及び工事計画）【330】
2. 日時：令和4年12月7日 10時00分～12時20分
3. 場所：原子力規制庁 9D会議室（TV会議システムを利用）
4. 出席者（※・・・TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

新基準適合性審査チーム

服部(靖)安全審査専門職、植木技術参与、山浦技術参与
技術基盤グループ 地震・津波研究部門
藤原技術研究調査官、堀野技術参与

事業者：

中国電力株式会社

電源事業本部 担当部長（原子力管理） 他5名※

中部電力株式会社

原子力本部 原子力部 設備設計グループ 担当※

電源開発株式会社

原子力事業本部 原子力技術部 設備技術室 担当※

5. 要旨

(1) 中国電力株式会社から、島根原子力発電所2号機の設計及び工事の計画認可申請書のうち、耐震性に関する説明書（原子炉圧力容器付属構造物、ストレナ、ドライウェル等の耐震性についての計算書等）について、令和4年12月1日の提出資料に基づき説明があった。

(2) 原子力規制庁から、主に以下の点について説明等を求めた。

【原子炉圧力容器構造物の耐震性について】

- レストレントビーム（CRDハウジング支持金具）の設計用地震力（水平方向）について、「炉心、原子炉圧力容器及び原子炉内部構造物並びに原子炉本体の基礎の地震応答計算書」によるばね反力のみを用い、レストレントビームの慣性力を考慮しなくてよいとする理由を説明すること。
- 蒸気乾燥器支持ブラケットの一次+二次応力について、具体的な評価方法を説明すること。また、一次応力も含め許容値について説明すること。
- CRDハウジング支持金具全体及びレストレントビーム1本分の2つの1質点系はりモデルによる固有周期評価について、はりの長さ及び断面2次モーメント等の入力値の具体的な設定方法について説明する

こと。

- CRDハウジング支持金具の固有周期評価について、3次元FEMモデルではなく、CRDハウジング支持金具全体及びレストレントビーム1本分の2つの1質点系モデルとして評価する理由を説明すること。また、2つの振動モデルを連成した場合の固有周期について説明すること。

【ドライウエルの耐震性について】

- 機器搬入口の固有周期の計算について、ドライウエルとの取付部に生じる変形を考慮したばね定数の算出方法について説明すること。

(3) 中国電力株式会社から、本日説明等を求められた内容について了解した旨の回答があった。

6. その他

提出資料：

なし